

1. 評価結果概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成19年12月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0 7 7 2 3 0 0 4 9 7		
法人名	医療法人社団 仁嘉会		
事業所名	グループホーム 花南会津		
所在地	〒967-0007 福島県南会津郡南会津町丹藤字中川原675-6 (電 話) 0241-62-8700		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成19年11月28日	評価確定日	平成20年1月4日

【情報提供票より】 (19年10月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 17人, 非常勤 0人, 常勤換算 17人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1 ～ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	39,000円	その他の経費（月額）	3,000円
敷金	有（円）無		
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（円） 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食円
	夕食	円	おやつ円
	または1日当たり1,000円		

(4) 利用者の概要

利用者人数		18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護 1		6 名	要介護 2	5 名		
要介護 3		5 名	要介護 4	2 名		
要介護 5		0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均	84 歳	最低	71 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立南会津病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな南会津地区の地域に根ざした、心とまわせるグループホームになってほしいと『花～南会津～』と運営者が名づけた木造2階建て2ユニットのグループホームである。このホームでは、理念に掲げた「利用者主体の介護」を目指し、利用者のできることを取り上げない、手を出し過ぎない、見守りを大切にして支援を行っている。職員一人ひとりが自分で考え実践できるよう、毎月、現状の中で課題を見つけ、全員で意見を交わす機会(ケア検討会)を設けている。さらに、職員が各委員会(広報、レク、園芸、栄養等)に所属し、毎月委員会を開催している。管理者は、職員が研修会で学ぶ機会が大切だと理解しており、全員が平等に参加できるように配慮しながら、希望に応じて支援している。研修会で学んできたことをすぐに取り入れ、より良いケアを目指して前向きに取り組んでいる様子が伝わってくる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果の要改善点となった『ホームに閉じこもらない生活の支援』は、家族と一緒に遠足を実施してみたり、目の前に移転してきた保育所の行事に招待されたり、畑仕事やプランターの花の手入れ等により機会が確保され、改善に向けての具体的取り組みとなった。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は介護サービスの質の向上の基本であると考え、全職員で取り組み、改善点について確認し、具体的な改善策を検討し、実現に向けて取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 地区の区長と民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表等に委員を依頼し、概ね2ヶ月に1回会議を開催している。運営推進会議では、ホーム内の行事、職員の異動、地域行事への参加予定、職員の研修会参加状況、今年度の計画等を報告している。運営推進会議で、ホームの目の前に阿賀川があるため災害時(台風等)の地域の協力を依頼し、災害無線をグループホームと保育所の間に設置してもらえることになった。委員から申し出があり、ふるさと民謡会がボランティアで敬老会を訪れ、踊りを披露してくれるようになった。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族宛に利用者ごとの金銭管理状況等を報告している。年に4回『花だより』を発行し、日頃の利用者の様子(お誕生会、行事等)を写真で伝えている。また、年に1回家族と一緒に遠足を実施しており、家族の意見や要望を聞けるような機会を確保している。出された家族の要望等はどんな些細なことでも申し送り職員で情報を共有し、運営へ反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域行事(祇園祭、芸能鑑賞会、文化祭、一斉清掃等)や保育園の行事(夏祭り、お遊戯会、運動会等)に利用者(ほぼ全員)と参加しているため、地域との交流は積極的に行われている。運営推進会議において、災害時の地域の協力を依頼し、協力が得られることになった。また、運営推進会議の委員の協力によりボランティアが交流に訪れるようになり、利用者の楽しみとなった。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員と協議し、『地域との関わりを大切に』という地域密着型サービスの役割を反映した表現を理念に追加した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝礼の時に、その日のユニットリーダーが読み上げ確認している。また、理念をホーム内に掲示しており、職員はいつでも確認することができる。さらに、管理者は職員に日頃から理念を掘り下げて、何を大切に利用者と関わりあうかを伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一斉清掃活動や祭りに利用者と一緒に参加したり、隣に移転してきた保育園の夏祭りや運動会へ全員で出掛けたりしている。また、文化祭に利用者と作品を作って出品し、受賞した。広報誌は家族だけでなく地域へも配布している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の改善点を職員全員で話し合い改善に向けて取り組んできた。今回の自己評価も全職員で取り組みを確認、課題を明確にしサービスの質の向上に役立てている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第4木曜日に開催を予定し、地区、地域包括支援センター、家族代表等の委員が活発に発言しながら行っている。地域防災への協力を依頼すると、ホームの前に災害無線を設置してもらえることとなり、目の前の河川敷道路の舗装を修理してほしいとお願いするとすぐに修繕してもらえたり、出された意見がすぐに反映されている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年に4回『花だより』を発行し利用者の日頃の様子（表情）を写真等で伝えている。また、毎月利用料金の請求書を送付する際に、預かり金の金銭管理状況等を報告している。薬の変更や体調の変化等はその都度、家族へ連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、家族の面会時等に要望を聞き取ったりしている。出された意見や要望は、職員間で申し送りし情報を共有し対応している。汚れた衣類がタンスの中にあっただけで気をつけてほしいと家族から申し出があり、職員が利用者と一緒に定期的にタンス内の整理をすることにした。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人間の職員異動はあまりない。異動等による利用者へのダメージを少なくできるように、利用者ごとに主の担当者と副の担当者を決め、対応している。異動の際は、時間をかけ新旧2人で関わるようにしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には希望に応じて職員を出席させ、内部研修も行っている。外部研修参加者は、職員会議で研修報告を行い全体へ伝わる仕組みになっている。自衛消防隊員教育研修（2日間）に職員4名が参加し、夜間の訓練を体験した。参加した職員は、とても良い機会だったと感じている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、勉強する場として外部研修等に職員全員が平等に参加できるよう配慮している。グループホーム連絡協議会にも職員の希望を基に参加させ、事業所外の意見や経験を積極的に活かす取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している（小規模多機能居宅介護）			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は食事の準備（野菜の切り方、煮方、味付けの仕方）の時や農作業（植え方、時期等）に関して、利用者から教えてもらいながら行っている。また、利用者同士が喧嘩になった時は、「負けるが勝ち」だよと教えてくれる別の利用者があり、職員が利用者から学ぶ場面もある。ホーム全体が大きな家族となり、お互いに支え合いながら、生活を送っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との関わりの中で気づいたことや言動がケース記録の中に書かれていたり、職員から問いかけたりして、利用者の思いや意向の把握に努めている。その内容をセンター方式の書式に移行しはじめたばかりであるが、利用者本位の対応となるよう検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「ケアカンファレンス表」という独自の様式を作り、一人ひとりの介護計画について職員全員が意見を書き込み、それを基に検討し決めている。検討した介護計画を利用者や家族へ相談している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しの際は、職員が自分の気づきや意見（短期計画ごとに何故継続・変更・終了等するのかの理由等を含め）をケアカンファレンス表に書き込み、家族や利用者の要望を取り入れたりして、利用者の現状に即した介護計画となっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医等により、利用者が適切な医療を受診できるよう、職員が通院介助をし支援している。遠方の専門医を受診する際は、家族に通院介助をお願いしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの「重度化における対応に係る指針」を作成し、利用者の家族に説明し、同意を得ている。看取りが必要となった際には「インフォームドコンセント」により聞き取っていくよう準備している。今後は重度化に伴う家族の意志確認書等により意向を確認しながら、職員間で（利用者が自己実現できるよう）対応方針の情報を共有すればさらに良いと思われる。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを尊重し、プライバシーには十分配慮し、親しみのある言葉でやさしく声かけをしている。さらに、個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日曜日に利用者の希望で買い物ツアーを実施したり、部屋で食事を摂りたい人には一人で食べられるよう見守りながら支援している。利用者一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事一連の作業（下準備、調理、後片付け等）の中で、できるだけ利用者の力を発揮できるよう支援している。収穫した畑の野菜やスーパーで買った食品を使い、食事作りをしている。誕生会の日には利用者の好きなメニューとデザートを出すことになっている。職員と利用者が同じテーブルを囲み楽しく食事できるよう雰囲気作りも大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方向的に決めているのではなく、利用者の意向を確認しながら、入浴支援を行っている。また、利用者の羞恥心や抵抗感にも配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	料理の下ごしらえ、テーブル拭き、後片付け、カーテン開け、玄関掃き、献立書き、畑仕事、雪かき等利用者の残存機能が維持できるよう、役割を見つけて支援している。職員と利用者で、季節に合わせて展示物を作り共有空間に飾っている。皆で作った卵の殻を利用した作品は町の文化祭で入賞した。その作品も共用空間に展示してある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	年に1回（春の遠足）、家族と一緒にホーム全体で出かける機会を設けている。天気の良い日には、散歩や買い物に出かけている。また、畑へ出て作業をしたり、ブランターで花の手入れをしたりしている。利用者は皆、子供たちが大好きであり、保育所の行事に誘われると全員で出かけることにしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者の行動パターンを把握しており、日中は玄関の鍵をかけなくても自由な生活が送れるよう支援している。1人で外に出してしまう利用者には付いて行き見守りながら対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。運営推進会議を通じて地域への協力を依頼している。さらに、災害に備えた備蓄も準備されている。夜間災害時の協力については、両隣の家個別に依頼してある。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ごとに食事摂取量等を常に確認し記録している。利用者の好みを取り入れた献立をホームの栄養士が作り、1日1,300~1,400カロリーになるよう考えられている。さらに、自助具を活用したり、小さなおにぎりを作りながら、少しでも自立して食べられるよう工夫し見守っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの名前の通り、共用空間には季節の花等を飾ってある。ソファ、テーブル、畳コーナーのコタツ、廊下の突き当りにあるベンチと利用者がそれぞれに自分を居場所を選ぶことができるようになっている。また、毎朝の清掃によりホーム内の気になる臭い等はない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の入り口には、花の名前と写真が付けてある。居室には、ホームが用意したベッドと整理タンスが置かれており、洋式の部屋と和式の部屋から選べるようになっている。利用者は自分の生活スタイルに合わせて、テレビ、時計、クリアケース、カラーボックス等できるだけ馴染みの物を持ち込んでいる。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム花 南会津

記入担当者名 君島 七恵

評価結果に対する事業所の意見
特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。